

11P
56
1

藤田茂吉
箕浦勝人
述

國會論
前編

明治十二年八月出版

國會論之緒言

今ヤ學士論者ノ意ヲ國事ニ注キ思ヲ世務ニ焦シテ國民ノ

康福ヲ増進セント欲スル者少シトセス然レモ其論スル所

ヲ聞キ其記スル所ヲ視ルニ多クハ一席ノ談話一篇ノ文字

ヲ以テ之ヲ論了スルニ止ルノミ未タ數年ノ星霜ヲ專ラ一

箇ノ論題ニ消シテ終始其說ヲ變セス時アレハ則之ヲ論ス

ルノ務ヲ懈ラサルハ甚タ稀レナルヲ信スルナリ

我儕ノ國會論ニ於ケル數年以來固ク執リテ變セサルノ說

ナリ當初其論題ノ初メテ社會ニ現ハルニ當テヤ我儕亦

其主唱者ノ一人タルヲ自信スルナリ抑モ民撰議院論ノ初

メテ社會ニ現ハレシハ今ヲ距ル五年前明治七年ノ初メナ
リ我儕ノ初メテ此說ヲ唱フルノ時ニ當リテヤ唯惟フ世人
ノ此說ニ抵抗シテ我儕ヲ目スルニ狂人ヲ以テセンヲ而
ルニ何ソ圖ラン世ノ人心ハ既ニ國會ニ葵向シタリシヲ以
テ世論翕然之ヲ唱和シ僅カニ之レニ抗スルモノアリト雖
モ直チニ國會ヲ非議スルモノニアラス唯我國ニ於テ尙早
シトシテ之ヲ拒ミタルノミ是以テ知ル國會ハ五年前ニ在
リテ既ニ我國ノ人心ニ適合シタルモノナルヲ
夫レ斯クノ如ク國會ハ我人心ノ夙トニ之ヲ冀望スル所ノ
モノニシテ苟クモ國會ヲ非トスルモノアラハ天下舉テ狂

人ト做スニ至レリ我儕カ初メテ國會論ヲ唱フルノ時ニ在
リテ世ノ狂人視スル所ナラント豫想シタリシトハ全ク相
反シテ國會ヲ非トスルモノハ却テ世ノ狂人視スル所ナル
ニ至リシ世ノ潮勢コソ賴モシケレ

然リト雖モ當初首トシテ此說ヲ主唱シタルモノ或ハ浮世
ノ情緣ニ纏綿シテ漸ク思想ノ變更ヲ來タシ敢テ其前言ヲ
食マサルモ還タ其說ヲ固執シ事ニ觸レ物ニ感シテ其志ヲ
發露スル能ハサルニ至リ爾後又此說ヲナスモノ過激粗暴
ノ論ニ出ルナキニアラサルヲ以テ國會論モ亦世人ノ漫然
看過スル所トナリ我儕平素ノ持論世人ノ着意ヲ惹カサル

ヤ。已。ニ。久。シ。矣。然。リ。ト。雖。モ。我。儕。ハ。苟。ク。モ。其。持。説。ヲ。演。ル。ノ。機。
會。ア。レ。ハ。敢。テ。世。人。ニ。質。論。ス。ル。ヲ。懈。ラ。サ。ル。コト。五。年。間。一。日。ノ。
如。シ。且。夫。レ。我。儕。ハ。居。ル。處。ハ。則。言。論。ハ。集。ル。處。ニ。シ。テ。世。ノ。潮。
勢。ヲ。ト。ス。ル。ニ。ハ。最。好。最。便。ノ。地。位。ナ。ル。ヲ。以。テ。我。儕。カ。五。年。間。
ニ。經。驗。ス。ル。所。ノ。者。ハ。我。儕。ヲ。ノ。充。分。ニ。其。説。ヲ。主。張。ス。ル。ノ。基。
礎。ヲ。立。テ。シ。メ。タ。リ。我。儕。カ。數。年。ノ。間。行。餘。力。アリ。思。暇。ア。レ。ハ。
必。ス。潛。神。默。考。シ。テ。其。利。害。得。失。ヲ。計。較。シ。タル。ノ。論。稿。今。ハ。積。
ン。テ。數。萬。言。ノ。多。キ。ニ。及。ベ。リ。故。ニ。我。儕。ハ。此。時。ヲ。以。テ。滿。腹。ノ。
丹。心。ヲ。吐。露。シ。大。ニ。國。會。ノ。利。害。ヲ。論。ス。ル。ア。ラ。シ。ト。ス。世。ノ。此。
論。ヲ。觀。ル。モ。ノ。願。ク。ハ。平。生。普。通。ノ。論。説。ヲ。以。テ。セ。ス。我。儕。カ。數。

年。間。ニ。焦。心。苦。慮。シ。テ。今。日。幸。ニ。吐。露。ス。ル。ノ。精。血。ナ。レ。ハ。我。儕。
カ。平。素。ノ。狂。愚。ヲ。慙。ミ。若。シ。異。見。ヲ。持。ス。ル。モ。ノ。ア。ラ。ハ。飽。ク。迄。
之。ヲ。論。述。シ。テ。我。儕。ト。共。ニ。充。分。ニ。其。利。害。ヲ。辯。析。シ。將。タ。我。儕。
ト。志。ヲ。同。フ。ス。ル。モ。ノ。ア。ラ。ハ。又。飽。ク。迄。之。ヲ。賛。成。シ。テ。我。儕。ト。
共。ニ。滿。天。下。ノ。同。意。ヲ。促。カ。サ。ン。コト。ヲ。

右。ニ。述。ル。カ。如。キ。主。意。ニ。基。テ。社。友。箕。浦。勝。人。君。ト。共。ニ。千。考。万。
究。シ。テ。頃。口。其。説。ヲ。完。全。ス。ル。ヲ。得。タ。レ。ハ。之。ヲ。纏。メ。テ。一。冊。子。

ニ。編。成。シ。以。テ。廣。ク。公。衆。ニ。質。サ。ン。ト。ス。世。ノ。此。論。ヲ。讀。ム。者。冀。

ク。ハ。我。儕。カ。幾。多。ノ。歲。月。ト。滿。身。ノ。熱。血。ヲ。此。論。ノ。爲。メ。ニ。消。費。
シ。タル。ヲ。思。ヒ。輕。々。看。過。セ。サ。ラ。ン。コト。ヲ。且。ツ。此。論。稿。ハ。社。友。箕。

新聞紙上に於て
其説ヲ成シテレハ
一冊ニ編成シ以テ
度々公衆ニ質スラン
トス

浦君ト共ニ各其勞ヲ分テ同シク草定スル所ナレハ我儕一
今此清議ニ入ラントスルニ際ス
 個人ノ私見ニノミ依頼シタルニアラサルナリ聊カ緒言ヲ
 記シテ以テ公衆ノ着意ヲ請フ

明治十二年七月廿七日

藤田 茂吉 識

7.28

國會論

國會ヲ開テ人民ニ參政ノ權ヲ附與スルノ必要ナルハ朝野
 共ニ許ス所ニシテ我政体ヲ立憲ニスルトノハ數年前ニ
 在リテ既ニ公明ナル聖詔アリ且夫レ在野ノ人民一人トシ
 其非ヲ語ルモノアルヲ聞カス故ニ國會ヲ起スハ一事ハ日
 本全國人心ノ歸向スル所ニシテ其思考ハ既ニ熟シタルモ
 ハト云ハサルヲ得ス然ルニ事實ニ於テハ昨年モ起ラス今
 年モ亦起ルヘキ形勢アルヲ見ス是即チ乃チ我黨カ國會何故ニ起
 ラサル歟ノ問題ヲ掲ケテ江湖ニ質ス所以也

國會ソノ物ニ就テハ固ヨリ之ヲ非トスル者ナシト雖世上

一種ノ論アリテ國會ヲ開クノ時尚早シト云ヒ漸次ニ其準備ヲナス可シト云フ此點ニ就テハ我黨モ亦曾テ考ル所ニシテ既ニ尙早シト云ヘハ自ラ其理由ナキニ非ルカ如シ第一我人民智德ノ度ヲ察スルニ概シテ未タ高尚ノ域ニ至ラスシテ自主自治ノ氣風ニ乏シク百千年來人ニ依頼シテ人ノ制御ヲ受ケ所謂政治之思想無キモノナレハ國ノ政權ニ參與スルカ如キハ此輩ノ知ル所ニ非ス又欲スル所ニ非ス其欲セサル所ノ者ヲ將テ強テ之レニ與ヘントシ其知ラサル所ノモノヲ以テ強テ之ニ勸メントスルハ啞人ニ呈スルニ歌曲ヲ以テシ跛者ニ教エテ馬ニ騎セシムルニ異ナラス

本人ノ爲メニ謀リ啻ニ快樂ヲ感セサルノミナラス却テ痛苦ヲ覺ユルニ足ル可シ故ニ今斯ル木石ニ等シキ人物ヲ集メテ國會ヲ開クモ唯一場ノ愚府タルニ過キササルノミ第二日本ノ人民必シモ木石ノミニアラス往々獨行活潑ノ人物ニ乏シカラス彼舊藩士族ノ如キ即チ其人ナリト雖モ如何セン此流ノ人ハ政治上ノ思想ナキニアラサレモ其思想ノ由テ來ル所ハ封建世祿ノ祖先ヨリ遺傳スル所ノモノニシテ能ク人ヲ治ルヲ知テ未タ人ニ治メラルハ知ラス他人ノ爲メニ民權ノ論ヲ唱フルモ自カラ爲メニ權利ヲ主張スルノ道ヲ知ラス其自ラ主張シテ權利ト名クル所ハ唯現今

政府ノ人ニ代テ自カラ政柄ヲ握ラントスルノ功名心ニシ
 テ所謂宿昔青雲ノ志ニ外ナラス此志ヲ伸ヘント欲シテ其
 路ヲ得サレハ功名ノ心ハ變シテ不平ノ心トナリ只管政府
 ナ怨望シテ社會ノ多事ヲ祈リ甚シキハ輕舉暴動ノ弊害ヲ
 生ス概シテ之ヲ非政府黨ト名ク可シ尙甚シキハ嘗テ官
 途ニ地位ヲ得テ意氣揚々タリシモノ一朝失意ノ人トナレ
 ハ俄然心事ノ方嚮ヲ變シテ所謂民權ナルモノヲ唱エ或ハ
 演說師トナリ或ハ新聞記者トナリテ漫ニ朝野ノ情態ヲ罵
 詈シテ以テ俗人ノ喝采ヲ求メントスル者少カラス此輩ハ
 畢竟世弊ヲ矯メント欲シテ論議スルニアラス自己一身ニ
 己レカ

浮沈アルカ爲メ事ニ托シテ不平ヲ洩ラスニ過キサレハ其
 議論ハ唯一種ノ怨言ト認ム可キノミ今我國ニテ聊ニテモ
 政治上ノ思想アル者ヲ求メントスレハ到底此輩ノ外ニ其
 人アルヲ見ス斯ル人物ヲ集メテ國會ヲ開カントスルハ策
 ノ拙ナルモノト云フヘシ今若シ強テ之ヲ開クモ其會ハ唯
 社會ノ事物ヲ破却スルノ一方ニ止リテ而シテ之ヲ經營スル
 ナ知ラス傲慢過激ヲ事トシテ溫良從順ノ風ヲ素リ遂ニ以
 テ粗暴ノ府トナルニ至ル可シ

若夫レ斯克ノ如クシハ到底國會ヲ開クノ時ハ今尙早シ須
 ラク人民智德ノ發達ヲ待タサルヘカラス其之ヲ待ツノ間

ニ漸次其準備ヲ整ヘサルヘカラス試ニ看ヨ夫ノ佛蘭西ノ
騷亂ハ過激ノ黨派國會ヲ急ニシタルカ爲メニ其禍ハ竟ニ
國王ヲ弑スルニ至リテ嘗テ微効ヲ奏セス却テ臭名ヲ天下
後世ニ遺シタルニアラスヤ國會ハ蜃氣樓ニアラス一朝偶
然ニ出現スヘキモノニアラス又試ニ英國政治ノ沿革ヲ見
ヨ紀元千二百十五年ジョン王在世ノ時「マグナカルタ」ノ
調印アリシヨリ官民ノ權力一伸一屈互ニ相迫リ互ニ相容
レテ百年ヲ永シトセス二百年ヲ遠シトセス三百四百竟ニ
六百五十餘年ノ星霜ヲ經テ始メテ今日ノ立憲政体ヲ成シ
得タルニアラスヤ此レヲ是レ思ハスシテ我大日本ノ東京

府中ニ於テ頓ニ國會ヲ開キ以テ英國ニ倣ハントスルハ思
ハサルノ甚シキモノナリ其災害ハ假令佛蘭西ト轍ヲ同フ
セサルモ空中樓閣ヲ築クノ譏ハ免ルヘキニアラサルナリ
且夫レ事ヲ緩慢ニシテ機ヲ誤ルハ弊ハ衆庶會議ノ性質ニ
於テ已ム可ラサルモノナリ古今世界ノ事實ヲ見テ知ルヘ
キノミ故ニ東京ニ開カントスルノ國會モ亦之ヲ開クノ後
ニ於テ假令不可思議ノ結果ヲ得テ其体裁ヲ成シタルニモ
セヨ其議事ハ緩慢ナル可キハ万々疑ヲ容レス從來政府ニ
テ二三日ニ決スヘキモノハ三四月ヲ費シ一片ノ布令ヲ以
テ施行スヘキモノハ數十百葉ノ議案辨論ヲ要シ而シテ其

結果如何ヲ見レハ到底議事無キニ等シキノミ例ヘハ國ニ
 大事業ヲ起シ兵制ヲ改メ税法ヲ變シ鐵道ヲ設ケ電線ヲ架
 シ築港開礦等ノ事ニ於テモ之ヲ衆議ニ附スルト決テ政府
 二三ノ人ニ取ルト其遲速緩急孰レカ便利ナル論ヲ俟タス
 シテ知ルヘキナリ其便利ナルモノハ即チ一國ノ便益ト云
 ハサルヲ得ス現ニ本年虎列刺豫防ノ事ノ如キ政府ノ手ニ
 アラスンハ斯ル活潑ノ處置ヲ施スノ道無ルヘシ流行病ノ
 豫防猶且政府ノ權力ヲ要ス今ノ中央政府ニシテ苟クモ其
 力ノ一分ヲ割ケハ則國事ニ一分ノ不振ヲ生スルヤ必セリ
 矣老練熟達ノ士ニシテ始メテ此味ヲ知ル可キノミ抑モ一

國ニ政府ヲ立ルキハ自ラ又一定不變ノ法無ルヘカラス貴
 賤貧富每個ノ人情ニ應シテ政ヲ行ハントスルモ固ヨリ能
 クス可キノ非ス此レヲ慮リ彼レヲ憚リ右視左顧シテ以テ
 民意ニ適セシメントスルハ政府ノ失体ノミナラス事實ニ
 於テモ其害ヲ見ル可キノミサレハ斯ク緩慢ニシテ且不便
 ナル國會ニ賴リテ爲事ノ機ヲ誤ランヨリ寧ロ政府ノ一手
 ニ政權ヲ委ヌルノ上策ナルニ若カサルナリ國會ソノ物ニ
 就テハ固ヨリ非議スヘキノ非サルモ臨時ノ權道トシテ暫
 ク之ヲ猶豫シ以テ時期ノ至ルヲ待ツニ若カサルナリ
 右ニ論スルカ如キハ我黨敢テ發言ハセサレモ嘗テ思考内

ニ泛ヒタル所ニシテ時々世間ノ記者論客ノ筆端口頭ニ顯
 ハル、所ノ大意ナリ即チ世論ノ一部分ナレモ數年以降我
 社會活動ノ景況ヲ熟察シ之ヲ既往ニ照ラシ之ヲ將來ニ慮
 レハ此論ノ果シテ非ニシテ一切之ヲ擯斥セサル可ラサル
 ノ理由アリ蓋シ論者ハ文明改進ノ大勢ヲ知ラスシテ既往
 ノ事跡ヲ忘ル、一猶一場ノ春夢消シ去リテ其痕ヲ留メサ
 ルカ如ク而シテ其將來ヲ慮ルハ雲烟渺茫ノ間ニ數里ノ遠景
 ヲ評スル近眼者流ニ異ナラサルモノナリ請フ之ヲ逐次辨
 論シテ其惑ヲ解カン

世ノ論者カ國會ヲ開クノ時尚早シト云フノ大意ハ第一今

ノ人民ハ自治ノ氣力ニ乏シキカ故ニ時節ノ至ルヲ俟ツ可
 シト云フニ在リ然ラハ則其之レヲ待ツトハ自治ノ氣力ヲ
 生スルノ時ヲ俟ツノ意ナルヘシト雖モ之ヲ生スルノ方便
 ハ果シテ如何ンスヘキヤ人文ヲ教養スルノ道ハ學校ニア
 リト雖モ唯リ學校教育ノ成熟ノミヲ以テ此目的ヲ達セン
 トスルハ甚ダ迂濶ナルニ似タリ殊ニ學術技藝ノ事ト政治
 上ノ事トハ自ラ其別アリ故ニ人民ニ政治ノ思想ヲ抱カシ
 メント欲セハ唯之ヲシテ其事ニ慣レシムルヲ以テ上策ト
 スルナリ英米ノ人民決シテ學者ノミニアラス唯政治ノ事
 ニ慣レタルノミ例ヘハ我封建時代ノ農商モ決シテ漢學者

ニアラス又人ノ食ヲ食フテ其事ニ死スルノ臣族ニアラス
ト雖モ全國ノ風俗君臣ノ義ヲ以テ組成シタル世態ナレハ
自ラ其義ヲ解スルモノ多キカ如シ近來世間ニ庶民會議ノ
說多ケレハ不學ノ民ト雖モ自ラ亦コレニ慣レテ其義ヲ解
スルモノ尠カラス本年府縣會ヲ開キ其事充分ニ整頓シタ
リト云フヲ得スト雖モ又大ナル不都合ナキヲ見テモ之レ
ヲ知ルニ足レリ故ニ人民一般ニ智德ヲ生シテ然ル後ニ國
會ヲ開クノ說ハ全一年間一日モ雨天ナキ好天氣ヲ待テ旅
行ヲ企ルモノニ異ナズ到底出發ノ期無カルヘシ唯是國
會ヲ開カサルノ辭柄トセル一說ノミ決シテ取ルニ足ラサ

ルナリ

第二論者ノ意見ニ現今日本ニ於テ聊カニテモ政治上ノ思
想アルモノハ悉ク是不平ノ民權論者ニシテ只管政府ヲ非
議怨望シ所謂非政府黨ト名ク可キ者ナレハ此輩ヲ集合シ
テ國會ヲ開クモ有害無益ノミ唯傲慢過激ヲ事トシテ溫良
從順ノ風ヲ亂ルヘシトハ事實ニ於テ或ハ然ルコアラシ然
リト雖モ人民不平ヲ抱クカ故ニ國會ヲ開クノ時尚早シト
云ハ、此不平ノ消散スル時ハ即チ國會ヲ開クノ時ナラン
然ラハ則此一條ニ就テハ天下ノ人心ヲ平和ニシテ其怨望
不平ノ心ヲ除クノ方便ヲ求ルコソ最大緊要ナルニ論者ハ

嘗テ其方便ヲ論セスシテ唯時節ヲ待テ其準備ヲ爲スト云
 フト雖モ其所謂時節ナルモノハ何レノ日ニ到來ス可キヤ
 蓋シ其際限ナキノミナラス吾黨ノ所見ニテハ論者ハ時節
 ナ待ツト云フ其時間ハ正ニ是レ天下ノ不平ヲ減スルヲ
 クシテ反テ之ヲ増スノ歲月タルヲ知ルノミ元來今ノ不平
 黨ハ論者カ言ヘル如ク宿昔青雲ノ志ヲ達スルヲ得サルカ
 爲メニ不平ナルモノナラン政權ニ參與セサルカ爲メニ不
 平ナルモノナラン或ハ之ヲ非政府黨ト見做スモ至當ナラ
 ン良シ不平ニモセヨ非政府黨ニモセヨ其論ヲ唱ル者ハ皆
 是日本人ニシ日本ニ此流ノ人アラシ限リハ悉ク之ヲ殺シ

テ殲スベキニアラズ又之ヲ說諭シテ不平ノ念ヲ斷タシメ
 ントスルモ從來ノ實驗ニヨレハ一モ其効ヲ奏シタルモノ
 アルヲ見ス已ニ之ヲ殺ス可ラス又之ヲ諭ス可ラス而シテ其
 不平ノ原因ハ到底政權參與ノ一點ニ在リトセハ此權ヲ附
 與スル迄ハ決シテ之ヲ慰ルノ方便アル可ラス然ルニ今何
 等ノ方便モナク又之ヲ工夫スルノ念慮モナク唯今ノ不平
 家ハ不平ナルカ故ニ國事ニ參與セシム可ラスト云フテ之
 ナ放頓スルキハ其不平ハ益々増長スルアルモ減少スルノ
 期ナカル可シ今若シ火事ヲ見テ其火焰ナルカ故ニ近ク可
 ラスト謂テ之ヲ放頓シタランニハ其火ハ則熾シナルヘキ

而已矣

然レモ又其不平ノ原因其實政權參與之一點ニ止ラスシテ
或ハ一身貧困ノ爲メナルモノモアラン或ハ名譽ヲ博セン
ト欲スルカ爲メナルモノモアルヘシト雖モ其内實ノ如何
ニ係ハラス各其公然唱フル所ハ則正々堂々タル民權論ナ
レハ之ヲ咎ルノ道アル可ラス假令民權論者中ニ眞偽ノ別
アルモ一切之ヲ擯斥スルノ理アラシヤ況ンヤ其眞偽ヲ辨
晰スルノ方便ナキニ於テオヤ然ラハ則之ヲ偽トスルモ臆
測ナリ之ヲ眞トスルモ臆測ナリ假ニ之ヲ臆測トシテ其眞
偽分ツ可ラサルモノトスルハ宜ク之ヲ試テ可ナリ國會

ソノ物ハ果シテ美ナルモノニシテ其ノ設立果シテ緊要ナ

上中ニテ

リトノ事實ヲ明知シタル後尙且之ヲ試ルハ不可ナリト云
フ乎吾黨ハ未タ其ノ不可ナル所以ノ因由ヲ知ラサルナリ
天下ノ不平ハ猶ホ春草ノ温濕ヲ得テ發生スルカ如シ其原
由ヲ除カスシテ其生々ニ任シ之ヲ放頓スルヲ一日ナレバ
則一日ノ長茂ヲ致シテ遂ニ消滅ノ期アルヘカラス今民權
ノ不平論モ其由リテ來ル所ヲ尋ヌレハ國事ノ門外ニ閉シ
出サ、ルヲ所謂癡々子ノ如クナルカ故也此門戸ヲ開カス
シテ徒ニ其子ノ叫フヲ咎ルモ遂ニ之ヲ止ル能ハスシテ却
テ益其叫聲ヲ高クセンノミ或ハ其癡々子ナル者兇器ヲ携

ヘテ、父母ニ向ハ、輒々之ヲ殺スモ、亦妨ケナシ、宜ク之ヲ殺サ、ル可ラスト、雖モ、兒子稍智アリテ、大惡無道ヲ企テサルヲ如何セン、故ニ論者カ天下ノ不平ヲ處分スルニ何等ノ工夫モナク何等ノ方便ヲモ用ヒスシテ唯人心ノ平和ノ時節ヲ待ツト云フハ正ニ其不平ノ增長ヲ待ツ者ノミ一日ヲ待タハ則一分ノ不平ヲ増ス可キノミ

論者ハ又今ノ民權者流ヲ概シテ非政府黨ト稱シ一切之ヲ擯斥スルカ如シト雖元來コノ非ノ字ハ英語「アンナ」ノ字ヲ義譯シタルモノニシテ反對ノ意ナレハ左迄惡ム可キ文字ニアラス人々ノ所見所論ニ就テ反對スルモノハ皆「アン

ナ」ノ字ヲ附スヘシ例ヘハ今吾黨ノ國會論ヲ讀ンテ此論ニ不同意ノ人アラハ即是レ非國會論者也此論者アルモ決シ我新聞社ヲ犯スニモアラス又吾黨記者ノ面目ヲ汚スニモアラス毫モ之ヲ意トスルニ足ラサルノミナラス吾所論ニ駁議ヲ容ル、者ハ議論上ニ於テ公ケニ相駁スルモ其私ハ之ヲ益友トシテ親ム可キナリ若シ吾論說ニ反對シテ之ヲ駁シタリトテ憤然トシテ之ヲ怒リ一切萬事之ヲ敵視シテ相對シタランニハ天下古今ノ學士論者ハ殆ント身外一友ナキニ至ラン非ノ字決シテ惡ムニ足ラサルナリ

今夫レ政府ハ全國ノ人民貴賤貧富ヲ一社會ニ集合シ一定

ノ政法ヲ以テ之ヲ制御スルモノナレハ其政法ノ人々個々
ニ適ス可ラサルハ勿論甲ニ便ナルノ政ハ乙ニ不便ナリ乙
ニ適スルノ法ハ甲ニ適セス其際ニハ何レカ不便ヲ蒙リ不
平ヲ鳴ラスモノ無キヲ得ス或ハ直チニ躬カラ不便ヲ蒙ラ
サルモ已レカ所見ト政府ノ所見ト互ニ相齟齬スルカ爲メ
ニ政府ノ所置ヲ見テ隔靴ノ感ヲ生スルモノナキニアラス
是皆非政府論者ナレト此論者アレハトテ敢テ政府ヲ犯ス
ニ非ス官吏ヲ凌辱スルニアラス如此ハ畢竟政府ナルモノ
ノ性質ニ於テ避ク可ラサルモノナレハ毫モ意ニ介スルニ
足ラス政府ノ要ハ唯天下人心ノ向フ所ヲ察シテ多數ノ人

ハ不平ヲ慰メ有智有力ノ人民ヲ籠絡シ社會ノ先導ヲナス
ヘキニアリ英國政治ノ社會ニモ保守黨ト改進黨トアリテ
常ニ相對峙シテ一進一退一起一伏一方ニ權力ヲ得テ政府
ノ地位ヲ占レハ一方ハ即チ非政府黨ナリ幾クモ無フシテ
此非政府黨復タ政權ヲ執ルニ至レハ前ノ政府黨ハ即チ今
日ノ非政府黨タル可キノミ故ニ非政府黨ヲ惡ンテ一切之
ヲ擯斥セントスルハ所謂非ノ字ヲ誤解シタルカ或ハ其度
量狹隘ニシテ他ヲ容ルヘ能ハス一概ニ非ヲ遂ケ勝ツヲ
好ムノ陋心ニ出テタルモノナラン

論者ハ又今日世上ノ民權家ヲ集メテ國會ヲ開キ此流ノ人

ナシテ社會ノ表面ニ立ツヲ得セシメタランニハ傲慢過激
 ナ事トシテ溫良柔順ノ風ヲ破ル可シトシテ深ク之ヲ憂フ
 ルカ如クナレモ是亦憂フルニ足ラサルノ憂ノミ之ヲ憂テ
 到底救フ可ラサルノ憂ノミ凡ソ物一利アレハ又隨テ一弊
 アルハ吾黨ノ辨ヲ俟タスシテ論者ノ知ル所ナラン今其弊
 ノミヲ舉テ極度ヲ論スルヲ止メ利ト弊ト相對シテ其平均
 ノ成跡如何ンヲ見ルノ緊要ナルモ亦論者ノ知ル所ナルヘ
 シ今夫傲慢過激ハ弊ノ極度ニシテ溫良柔順ハ利ノ極度ナ
 リ固ヨリ比較ス可キモノニアラス故ニ爰ニ論語ノ本文ヨ
 リ引用シ剛毅木訥ト巧言令色トノ二語ヲ并ヘ上ノ傲慢過

激ト溫良柔順トヲ將テ之ニ聯合センニハ其孰レニ屬ス可
 キカヲ知ルヘシ即チ傲慢ハ剛毅ノ弊ニシテ溫良ノ弊ハ巧
 言ナリ其弊ノミヲ舉テ極度ヲ論スレハ現今社會ノ表面ニ
 在ルモノ亦其品行ノ欠點甚タ少カラサルナリ維新以來僅
 カ二十年ヲ經テ驕奢淫逸ノ風ハ日ニ盛ンニ花柳ニ戯レ風
 月ニ酔ヒ絲竹管絃ノ盛アルニ非レハ宴ヲ成サズ楚腰ノ纖
 細アルニアラスンハ客ヲ悅ハシムルニ足ラス甚シキハ所
 謂上等社會ノ士君子ニシテ牧猪奴ノ戲ヲ學ヒ以テ懇會ノ
 媒ニ供スルモノアリ所謂流行ノ交際ナルモノ即是ナリ其
 交際甚ダ親密ニシテ夫妻兄弟ノ間モ亦啻ナラサルカ如ク

實ニ温良從順ナルヘシト雖モ其極度ヲ摘發シテ之ヲ論シ
タランニハ或ハ諂佞ニシテ巧言令色ノモノナキヲ期スヘ
カラス

試ニ看ヨ十年前以前ハ舊幕人ノ奢侈情弱ヲ咎メ概シテ之ヲ
江戸ノ風俗ト唱ヘテ蛇蝎視シタルモノモ今ハ漸ク其風俗
ニ化セラレタルヲ知ル可シ今ノ社會ハ表面ニ在ルモノハ
政治上ニ於テハ江戸ヲ制シタレモ華美情弱ノ風ニ至リテ
ハ江戸ニ制セラレタル者ト云フモ可ナラン此一事ハ固ヨ
リ弊ノ極度ヲ舉ゲタルモノニシテ決シテ上等社會ノ全面ヲ
評スルニアラス故ニ論者カ彼民權者流ヲ評シテ傲慢過激

ナリト云フモ必ス其一部ヲ摘發シタルモノナルヘシト雖
モ一部ノ論ハ以テ全面ヲ斷スルニ足ラサルナリ民權論者
必シモ悉皆傲慢過激ナルニアラズ其然ル所以ノモノハ即
チ剛毅木訥田舎漢ノ弊ノミ或ハ奸佞狡猾世ト浮沈シテ却
テ民權ノ假面ヲ被リ以テ世ヲ瞞着セントスルモノナキニ
アラズト雖モ是亦一部分ノミ以テ全面ノ標準トナスニ足
ラサルナリ抑モ現今日本ノ全軀ハ未タ通人ノ世界ニアラ
ズシテ尙道德ノ舊城ニ棲息スルモノ多シ此道德ノ乾坤ニ
居テ人ノ心事品行ヲ評シ剛毅木訥傲慢過激ト温良柔順巧
言令色ト二様ニ并ヘテ孰レカ善ク文明ノ進歩ニ適スヘキ

ヤト問ハ、蓋シ容易ニ判定ス可ラサルナリ
 以上論述スル所ニ據レハ國會ヲ開クニ於テ毫モ故障無キ
 カ如クナレモ論者尙之ヲ早シトシテ到底期ス可ラサルノ
 時節ヲ期シ逡巡躊躇スルハ何事ソヤ蓋シ人智ノ軟弱ニシ
 テ先見ノ明無ク假令ヒ少シク見ル所アルモ之ヲ斷行スル
 ノ勇氣ナキカ故也吾黨固ヨリ智力ナシ又勇氣ナシ等シク
 逡巡躊躇スルノ徒タルヲ免レスト雖モ幸ニシテ嘉永安政
 ノ間ニ生レ近時日本ノ變遷ニ際シテ事物進動ノ景況ニ就
 テハ或ハ之ヲ父兄師友ニ聞キ或ハ視シク目撃シタルヲ以
 テ聊カ自己ノ意見ヲ以テ事ヲ判斷スルヲ得ルノミ吾黨曾

テ西史ヲ讀ミ國會ノ事ニ就テハ佛蘭西ノ騷亂ヲ知ラサル
 ニアラス英國ノ沿革ヲ聞カサルニアラス然レモ東西國ヲ
 異ニシ古今時ヲ同フセサレハ必シセ英佛ノ先例ヲ把リテ
 我日本ノ國事ヲ斷ス可ラス況ンヤ西洋諸邦ニ在リテモ近
 時ノ開明ハ實ニ長足ノ進步ナリ我日本ノ如キ即チ其近時
 ノ開明ヲ國ニ入レタル者ナレハ古ノ英佛ヲ以テ今ノ日本
 ノ標準ト爲ス可ラサルモハ甚タ多キニ於テオヤ然ラハ則
 史論モ亦依頼スルニ足ラサルナリ故ニ吾黨ハ近ク譬テ日
 本ノ事實ニ取り以テ國會開ク可キノ證ヲ舉ケントス其當
 否ハ則讀者ノ審裁ニ任スルノミ

抑モ今日ニ在リテ國會ヲ開ク尙早シト云ハ、戊辰ノ王政維新モ當時ニ在テ尙早シト云ハサルヲ得ス試ニ思エ德川政府ハ儼然江戸ニ存立シ三百ノ諸侯其統御ヲ受ケ寛永以降未タ曾テ君臣主從ノ關係ヲ改メサルナリ而ルニ嘉永ノ末年開國ノ一舉ヨリ物論漸ク沸騰シ諸藩有志ノ徒ト稱スル者ハ私ニ交通ノ路ヲ開キ或ハ江戸ノ藩邸ニ出沒シ或ハ京師ノ公卿（當時概シテ堂上方ト稱ス）ニ結交シ傍ラ其藩主（即今日ノ華族）ニ説キ其重臣ニ勸メテ稍ク一種ノ黨派ヲ組成セリ而シテ其主唱スル所ヲ問エハ則尊王攘夷討幕ノ三大主義ナリ顧テ舊幕政府ノ事情ヲ推究スルキハ既ニ外國ト條約ヲ結テ諸

港ヲ開キタル上ハ攘夷ノ行フ可ラサルハ勿論世界文明ノ進動ニ逼ラレテ文學技術ヲ修ルノ必要ナルヲ悟リ首トシテ江戸ニ洋學校ヲ興シ長崎ニ航海術ヲ傳習シ文武ノ教師ヲ海外ニ聘シ又秀才ヲ撰ンテ歐米ニ遊學セシムル等日ニ開明ニ進ムノ實ナキニ非ス又國安ヲ維持スルノ意ナキニアラサルナリ幕府人ノ苦辛ハ即チ唯此ニアリト雖モ其事固ヨリ緩漫ニシテ人心ヲ鼓舞作興スルニ足ラス且諸藩ノ強梁ニ對シ浪士ノ跋扈ヲ制セントスレハ自カラ政府鄭重ノ風ヲ保持シテ時トシテハ腕力ニ訴ルモ亦避ク可ラサルノ手段ナリ此手段ニヨリテ其事ヲ裁スレハ則益有志輩ノ

不平ヲ増シ益事態ノ切迫ヲ致ス而ルニカノ有志輩ハ幕府ノ處置ヲ目シテ一切之ヲ御威光論ト稱シ曾テ其是非得失ヲ問ハズ直行急進左右ヲ顧ミスシテ尊王效サ、ル可ラス大義忘ル可ラス夷狄攘フ可シ幕府討スヘシト胸中寸毫ノ餘地ヲ遺サ、ル者ノ如シ

然リト雖モ其黨派中固ヨリ深謀遠慮ノ人アリテ攘夷ノ實ニ行ハル可ヲサルヲ知り開國ノ我利益タルヲ悟リテ私ニ其準備ヲ爲シタル者ナキニ非レモ如此ハ則其内情ニシテ少年輩ノ知ル所ニ非ス盛年血氣ノ輩ハ唯尊王攘夷討幕ノ三主義ニ信心歸依シテ幾ント滿天下ノ流行ヲ成シ凡ソ社

會ノ秩序ヲ破リテ政府ヲ困却セシムルニ足ル可キ者アラハ何事ヲナスモ敢テ避ケサルカ如ク人ヲ殺害シ家ニ放火シ白晝ニ爭鬪スルモノアリ暗夜ニ強盜ヲナスモノアリ啻ニ國事ノ犯罪ノミナラス公然罪ヲ民事ニ犯シテ敢テ意トセス此際ニ當リ苟クモ社會ノ表面ニ立テ國安ヲ維持セント欲スル舊幕人ハ何等ノ觀ヲナシタルカ總ヘテ之ヲ浪士輩ト名ケ純然タル政府ノ讐敵ト認メテ之ヲ蛇蝎視シタルモ亦其謂ナキニアラサルナリ唯幕府人ノミナラス當時日本ノ社會ニ地位ヲ占メテ揚々タル者カ或ハ老練熟達ヲ以テ稱セラレタルモノト雖モ疑ヲ尊王攘夷ニ容レタルヤ必

セリ矣或ハ假令其事ノ是ナルヲ信スルモ時節尙早シトシ
 テ之ヲ論シタル者モアリシナルヘシ然リト雖モ天下ノ大
 勢ハ人力ヲ以テ左右スヘキニアラス遂ニ徳川政府ノ大政
 返上ト爲リ伏見ノ戦争ト爲リ東征ノ師ト爲リテ竟ニ王政
 維新ノ新政ヲ見ルニ至レハ往時舊幕人ノ御威光論ハ甚ダ
 非ニシテ其苦辛シテ國安ヲ維持セントシタルモ非ナリ浪
 士輩ヲ蛇蝎視シテ之ヲ滅却セントシタルモ皆非ナラン而
 ノ當時亂妨狼藉無謀過激ト稱セラレタル浪士輩ハ必シモ
 粗暴ノ人ニアラスシテ忠良ノ士人タルヲ發見シ其^レチシ
 テ社會ノ表面ニ立タシムレハ即チ温厚ナル人物トナリ前

年之ヲ蛇蝎視シタル佐幕者流即チ政府黨ノ人ハ今ハ其所
 謂浪士ノ處置ニ感服シ片言隻語ノ以テ之ヲ論議スルモノ
 ナキニアラスヤ然ラハ則戊辰ノ王政維新ハ當時ニ在リテ
 尙早キカ如クナリシノミニシテ其實決シテ早キニ非ス万
 一明治ノ今日ニ至ル迄維新ノ偉業行ハレスシテ徳川政府
 尙依然タルアラハ世論ハ必ス王政維新ハ尙早シト云フナ
 ラン人智ノ軟弱ニシテ依頼スルニ足ラサルヤ以テ知ルヘ
 シ然リ而ソ王政維新ハ新舊政府ノ興廢ニ係レル大變動ナ
 レ^レ斷シテ之ヲ行ヘハ斯クノ如キノ成跡アリ然ルヲ況ン
 ヤ今日吾黨ノ企望スル所ハ僅カニ國會ヲ開クノ一事ニシ

テ政府ノ興廢ニ係ルニアラス又當路ノ人ヲ害スルニモアラ
 ス唯是レ人民ニ參政ノ權ヲ附與スルノヲナルノミ假リ
 ニ身ヲ反對論者ノ地位ニ置キ以テ其害ノ在ル所ヲ摘發セ
 ントスルモ決シテ得ヘカラサルナリ吾黨ハ言ハントス今
 ハ世ニ在リテ十二年前ノ王政維新ヲ尙早シト云ハサルモ
 ハハ又今日國會尙早シノ言ヲ吐ク可キニアラサルナリト
 史記ニ云ク沛公關中ニ入リ父老ト法ヲ三章ニ約シテ悉ク
 秦ノ苛法ヲ除ク民大ニ喜フト之ヲ按スルニ沛公ノ爲人素
 ヨリ寛大ナリト雖モ其法ヲ三章ニ約シタル原因ハ沛公ノ
 特恩ニ發シタルニアラサルナリ公ハ唯關中ノ人心ヲ察シ

其秦ノ苛法ヲ厭惡スルノ狀ヲ視テ乃チ民情ノ方向ニ從ヒ
 シ者ナリ故ニ沛公ヲシテ此令ヲ發セシメタルモノハ則沛
 公ノ仁心ニアラスシテ關中ノ人心ナリ而シテ其人心ヲシテ
 如此ナラシメタルモノハ秦ノ苛法ナリト云ハサルヲ得ス
 凡ソ社會ノ事物ハ偶然出現スヘキニアラス遠ク其原因ヲ
 存スルモノアルヲ知ル可シ

我國維新ノ初ニ於テ首トシテ五箇條ノ御誓文ヲ發セラレ
 タリ其一條ニ廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決ス可キヲ云ヘ
 リ今謹ンテ之ヲ按スルニ此御誓文ハ我 聖明ナル天皇陛
 下ノ御特旨ニ出テタル固ヨリ疑ヲ容ル可キニアラサレ

此御特旨ノ由リテ來ル所ヲ尋ヌレハ當時我 天皇陛下ハ
天下人心ノ歸向スル所ヲ御洞察アラセラレ正シク其方向
ニ從テ此民ヲ御統御アラセラレ給フハ御深旨ナルヲ知ル
ナリ然ラハ則此御誓文ハ我 天皇陛下ノ特旨ニシテ又天
下人心ノ歸向スル所ノモノト認定セサルヲ得ス此時ニ當
リテ天下ノ人民ハ漸ク西洋近時ノ開明ヲ知り日本舊來ノ
門閥主義ヲ厭惡シテ方サニ政治ノ一新ヲ渴望スルノ秋ナ
レハ御誓文ハ恰カモ大旱ノ雲霓ナルモノナリ（當時日本人
明ノヲ知ラントスルニ切ナルナリシハ福澤
先生所著西洋事情ノ流行シタヲ以テ知ヘシ）蓋シ御誓文ノ第
五條ニ舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘント云ヘル

モ其深思ハ在ル所窺ヒ知ルニ足レリ故ニ吾黨ハ特ニコノ
御誓文ヲ感佩スルノミニ非ス天下人心ノ改進ニ赴キタル
ヲ祝スルナリ世ノ急激論者ハ動モスレハ直チニ御誓文ヲ
引用シテ恰モ之ヲ論據ト爲シ五條ノ御誓文アルカ故ニ云
々ト只管之レニ依頼スルカ如クナレモ吾黨ハ然ラス反テ
此御誓文ハ現出シタル所以ノ原因ニ就テ人心ノ方向ヲト
シ以テ開明ハ進步ヲ欣フモノナリ
天下ノ人心ハ既ニ改進ノ方位ニ向ヒ門閥主義ハ殆ト地ヲ
拂テ勢力ナキモノ、如シ若シ其事實ヲ証セント欲セハ王
政維新ノ始終ヲ視テ知ルヘキナリ抑モ革命ノ一舉ニ於テ

直接ニ必要ナルハ即チ兵力ナリ而ルニ當時兵力ノ在ル所
ヲ求レハ薩長土ノ三藩ナリ此三藩ノ兵ヲ用ヒテ而シ維新
ノ功ヲ奏シ新政府ノ基礎コヽニ定立セリ矣然ラハ則天下
ノ政權三藩ニ歸ス可キハ固ヨリ當然ノ勢ニシテ果シテ門
閥流行ノ世態ナリトセハ島津、毛利、山内ノ孰レニカ將軍宣
下ノ事アリテ徳川氏ニ代テ政權ヲ執ル歟然ラスンハ三藩
鼎立シテ復タ爭亂ニ陷ル歟日本七百年來ノ例ヲ追ハ、其
斯クノ如クナルハ必然ノ勢ナルニ戊辰ノ一舉ニ限リテ此
例外ニ行ハレ天下ノ政權ハ強藩ノ君主ニ歸セスシテ反テ
舊時ノ陪臣タル強藩ノ士族ニ歸シタリ亦奇ナラスヤ加之

革命騷亂ノ其間ハ藩名ヲ以テ兵ヲ用ヒ而シ騷亂已ニ定レ
ハ輒チ其藩ヲ廢シテ藩主ヲ擯ケ之ヲ政權ノ戶外ニ放却シ
テ世人モ亦之ヲ怪ムノ色ナシ日本舊世界ノ眼ヲ以テ之ヲ
視レハ啻ニ奇異トスルノミナラス或ハ社會ノ顛覆トシテ
驚駭スルニ至ラン畢竟天下ノ人心舊來ノ陋習ヲ厭フテ改
進ヲ慕フハ甚シキニアラサレハ何ヲ以テ斯ク奇異顛覆ノ
大舉動ニ堪ユヘケンヤ知ルヘシ我日本帝國ハ開國以來二
十年恰モ社會ノ秩序ヲ新造シタルモノナルヲ

夫レ斯クノ如ク政權ハ門閥ニ歸セス舊藩主人復タ顔色ナ
ク文武ノ柄ヲ舉テ之ヲ一政府ノ下ニ集メ廣ク會議ヲ興シ

萬機公論ニ決シ以テ 天皇陛下ノ統御ヲ仰クニ至レリ故
ニ維新以來ハ當路者ハ取りモ直サス此會議中ハ人ニシテ
其施政ハ即チ此公論ニ由テ施シタルモノナリ假令其身分
ハ舊時ノ陪臣ニシテ門閥ノ榮ナキモ毫モ妨クル所ナキハ
即チ會議公論ニ門閥ヲ要セサレハナリ然ハ則今後コノ當
路ノ人カ幾年ノ地位ヲ保テ何等ノ功勳ヲ重ヌルモ世襲ノ
門閥ヲ再興シテ官ヲ世ニスルノ時アルヘカラス若シ門閥
ヲ以テ官ニ居ルヘキモノトセハ舊藩主ノ在ルアリ焉ソ舊
陪臣ヲシテ權斷ヲ私セシメンヤ三歳ノ童兒モ能ク之ヲ知
ラン且夫レ現時ノ當路者カ其路ニ當ル緣由ハ全ク其人ノ

才力ニ由リ 天皇陛下ノ御誓文ニ會議ヲ興シ公論ニ決ス
ルハ旨ヲ以テ任セラレタル者ニシテ取りモ直サス會議中
ハ人ナリトスルキハ國會ノ精神ハ今日既ニ成リテ事實ニ
於テ行ハレタリト云ハサルヲ得ス唯其精神ヲ成シテ未タ
其軀裁ヲ成サハルモノナリ吾黨ノ企望スルモノ決シテ多
ニアラス唯此ノ軀裁ヲ事實ニ施サントスルノ一事ノミ本
來無物ノ蜃氣樓ヲ造ルニアラス天下ノ人心既ニ成リテ今
日ハ政治上ニ行ハルハ精神ニ配合スルニ實軀ヲ以テセン
ト欲スルハ外ナキナリ易ニ曰ク履霜堅氷至ト我國既ニ會
議公論ノ霜ヲ履ミ門閥ノ主義ヲ廢シテ事實ニ妨ナキヲ見

讀者ハ余輩ガ昨
日、紙上ニ載送セ
シ所ノ御臨幸御
見合、一件ヲ讀
ミタルハ、余輩ハ
只、二三四ノ論議
ヲ爲スシ、今、ロニカリ
テ、臨幸ナリ、諸君ス
ル重ノ宜シキニ高
ハサル所、以テ、切實

タリ國會ノ堅氷至ルモ亦自然ノ勢ニアラスヤ其勢ハ恰モ
彈丸ノ砲口ヲ離タルカ如ク着彈ハ點定リテ變ス可ラス何
者ノ呆漢ソ其彈丸ハ中止ヲ祈ル惑ヘルモ亦甚シ矣
論者曰ク事ヲ緩慢ニシテ機ヲ誤ルハ會議ノ性質ニ於テ免
ル可ラス故ニ國會ヲ開クニ至ラハ必ス此弊ニ陷ル可シト
敢テ國會ソノ物ヲ咎メスシテ還テ其結果ヲ憂ルモノ、如
シト雖モ是亦憂フルニ足ラサルノ憂ノミ抑モ近時ノ文明
ハ其進步甚タ迅速ニシテ往々人ノ意表ニ出ルモノアリ頃
日福澤先生所著民情一新ト題セル書ヲ見ルニ頗ル吾黨ノ
感想ヲ誘起スルモノアリ書中云ヘルコアリ曰ク近時文明

ノ多シタルニ懸念
事ヲ謀ル者或ハ
之ヲ取ラス時節極
ニモ被ミス一途ニ
和情ヲ遣セト欲
シ自家ノ都合ニ
堪ニテ不敏ニモ此
時ヲ以テ好機會ナ
リト信シ却テ余輩
ノ望ミ聖王スル者モ
アリシカドモ時勢
ノ宜ニ由リハサル復
テ軍ホ之ヲ如何トモ
スル能ハズ聖王ニモ
此其難一難有ニ
際シ且リ一重ニ被シ

ノ元素ハ蒸氣電信印刷郵便ノ四者ニシテ何レモ皆千八百
年代ノ發明工夫ニ係リ人民一度ヒ此利器ヲ利用スルヲ知
ルキハ其勢力忽チ以前ニ百倍シテ古人七十年ノ事業ハ今
人三年ヲ以テ卒ル可シ古人百名ノ力ヲ要シタル働ハ今人
一手ヲ以テ成ス可シ千八百年代ヲ界ニシテ前代ノ人民ハ
芋蠅ナリ今代ノ人民ハ胡蝶ナリ胡蝶ニ語ルニ芋蠅ノ事情
ヲ以テス可ラス胡蝶ヲ評スルニ芋蠅ノ性質ヲ以テス可ラ
ス云々ト此言眞ニ中レリト云フヘシ
我國二十年以來西洋近時ノ文物ヲ採用シテ人民ノ精力ヲ
増進シタルハ實ニ驚クニ堪エタリ恰モ二十年ノ星霜ヲ費

タリトハ誠ニ然ルベ
キ事ト云ハルナリ
然レモ唯リ彼ノ十
五區府會議員等
ノ議案ニ對シテハ聊
カ〇〇〇ヒサル所ア
リ此災禍日著ク日増
シ東支那是シテ
事ニ勝テ吾國ヲ
抑ヘテヘノ字ナリ
ニ祖國救シタル用
意ノアタラシク事
ト成リタルハ如何モ
ト云フニ吾國ノ事
ト云ハルコト得ズ

ヤシテ二百年ノ事業ヲ成シタルモノナリ然リ而シテ其事業ハ必シモ悉皆政府ノ手ニ成レルモノニ非ス凡ソ商賣工業技藝ノ事人民ノ發意ニ成ルモノ甚タ多シ譬ヘハ教育法ノ如キ近時ニ至リ初メテ文部省ノ事務モ舉リタルカ如シト雖モ人民ハ必シモ文部省ヲ俟タスシテ起レルモノアリ試ニ今日ノ著書新聞雜誌ヲ看ヨ其記者ハ官ノ學校ニ屬セスシテ私塾ヨリ出テタル者十中ノ八九ニ居ル然ラハ則文部省ノ設立以前ニ在リテ全國人民ノ文學モ亦頗ル活潑ナリシヲ知ル可キナリ又カノ演說講談ノ如キ明治七年迄ハ日本國中嘗テ之ヲ語ルモノモアラサリシニ同年春夏ノ間現

既ニ一昨日ノ演說
ニ於テ余等及ノ面々
如何レモ余等ニシテ
驚歎悲憤ノ色ア
リントハ尤ニテ余等
ニ至ト申サン歟何
ニテセヨ市民等
メニハ取モ加スベシ
フナリ
八月五日

ニ吾黨カ慶應義塾ニ在リシキ社中偶然ノ發意ニ由リ同志相謀リテ三田演說會ノ一私社ヲ結ビ初メテ其濫觴ヲ開テ全國ノ木鐸トナリシヨリ今日ニ至リテハ朝野ヲ問ハス演說講談ハ普通ノコトナリ其勢日一日ニ増進スルモ決シテ退歩スルコトナシ遂ニ近時官吏ノ其會席ヲ觀察スルニ至レリ其勢力ヲ以テ社會ヲ左右スルニ足ルヲ知ル可キ也而シテ其流行ノ歲月ヲ問エハ僅カニ五年ニ過キス學事ノ進歩迅速ナリト謂フ可シ

若夫レ文學ノ世界ヲ去テ商業ノ形勢ヲ觀察スルモ亦斯クノ如クナル而已政府初メテ國立銀行ノ條例ヲ發シテヨリ

數年ナラスシテ之ヲ設立スルモノ殆ント二百ニ及ヘリ而
 ノ尙之ヲ出願スル者多シト聞ク其他何社某會ト稱シ米金
 等ノ相場所アリ此ニ集ル者往々山師ノ種族多クシテ主客
 共ニ或ハ博徒ニ等シキ人物ナリト云フモノ無キニアラス
 ト雖モ其人物ノ如何ヲ問ハス其業ノ盛ナルハ昔年二百
 倍スルニアラスヤ亦以テ商民ノ精力活潑ナルヲトスルニ
 足レリ之ヲ要スルニ今ノ人民ハ無事ニ苦ムモノナリ唯之
 ニ授ルニ事業ヲ以テセハ其緩慢ハ憂フ可キ所ニアラス世
 上ノ實際ニ注目セハ自ラ其證ヲ得ン然ルニ尙將來ヲ過慮
 シテ躊躇スルハ猶胡蝶ノ羽翼既ニ成ルヲ知ラスシテ芋蠋

ハ昔日ヲ夢想スルカ如キ者ナリト云ハサルヲ得ス

然リト雖モ今一步ヲ退テ論者ノ所見ニ從ヒ人民ノ事業ヲ
 緩慢ナルモノトセンカ果シテ然ラハ吾黨ハ還タ之ヲ社會
 ノ幸福ト認メサルヲ得ス前已ニ言ヘル如ク我國ハ西洋近
 時ノ文物ヲ採取シテ一切之ヲ利用セリ而シテ其先導ヲナシ
 タルハ即チ政府ニシテ十年以來舊物ヲ廢シテ新法ヲ興シ
 事細大トナク幾ント遺ス所ナキカ如シ然リ而シテ人類ニ先
 見洞察ノ明アル可ラサルハ固ヨリ論ヲ俟ダス其新陳興廢
 ノ際或ハ果斷勇進活潑ニ過キタルモノナキニアラス曆法
 チ改革シテ五節ヲ廢シ地租ヲ改正シテ巨額ノ民財ヲ費ヤ

シ佛閣ヲ毀テ勝地ノ風景ヲ損シ町村ノ名ヲ改メテ人ノ記
 臆ヲ紊リ城郭ヲ毀テ並木ヲ伐ル等ノ事ハ吾黨之ヲ目シテ
 一々其當ヲ得サルモノト云フニアラス之ヲ行フテ自ラ間
 接直接ノ利益モアラシ然レモ利益アレハ又隨テ弊害ナキ
 ナ得ス或ハ其事美ナルモ其時ニ適セサルモノアリ或ハ其
 時ニ適スルモ其處ニ應セサルモノモアラシ之ヲ要スルニ
 十年以來政府ノ美舉固ヨリ枚舉スルニ遑アラスト雖モ其
 間或ハ失策アレハ必ス因循緩慢ニ失スルニアラスシテ果
 斷活潑ニ失シタルモノナリ畢竟政府ノ勢力ヲ以テ獨リ近
 時ノ文物ヲ利用シタルノ弊ト云ハサルヲ得ス故ニ今論者

ノ所見ニ從ヒ國會ヲ開テ國事ヲ議シ其事果シテ緩慢因循
 ニ赴クモ却テ事物ノ急進ヲ牽制スルノ具ト爲ル可キ耳譬
 ヘハ前年神佛ノ混合ヲ廢セントシテ諸方ノ伽藍ヲ破却シ
 タルカ如キモ人民ノ議ニ附シタラハ或ハ因循說ヲ唱ヘテ
 之ヲ保存シコノ殺風景ナル成果ヲ見サリシヲモアラシ因
 循ノ字面惡ムヘキカ如シト雖モ事柄ニ由リテハ之ヲ鄭重
 ノ字ニ比シテ間髪ヲ容レサルモノアリ況ンヤ今ハ急進世
 界ニ於テ心波情瀾ノ奔騰ヲ制節スルハ最も緊要ノヲナレ
 ハ論者カ過慮シテ憂ル所ハ吾黨ノ企望シテ喜フ所ナリ
 吾黨既ニ六回ノ辨論（新聞紙上ニ於テ六回ノ辨論ヲ）ヲ重

予テ國會起ス可キノ主義ヲ記シタレモ未タ一人ノ之ヲ非
トスルモノアルヲ聞カス然ハ則吾黨カ本論第一篇ニ於テ
明言セル國會ヲ起スノ一事ハ日本全國人心ノ歸向スル所
ニシテ其思考ハ既ニ熟シタリ云々ノ數語ハ此ニ至リテ益
其信ヲ失セサルモノ、如シ然リト雖モ凡ソ兩間ニ成立ス
ルノ事物コノ一方ニ便利ナレハ彼ノ一方ニ不便利ナルヲ
常トス大旱ノ雲霓ハ千万人ノ渴望スル所ナリト雖モ澤國
ノ人民ハ反テ之ヲ喜ハス秋涼ハ衆人ニ可ナリト雖モ肺ヲ
患ル者ハ其氣候ニ犯サル、ノ憂アリ天時尚且然リ況ンヤ
人事ニ於テオヤ甲ニ利スル所ノ者ハ以テ乙ニ損シ乙ニ益

スル所ノ者ハ以テ丙ヲ害ス完全無缺億兆悉ク利益トスル
所ノモノハ幾ント鮮矣

今ヤ國會ヲ開クノ一事ハ固ヨリ天下人心ノ歸向スル所ニ
シテ一般人民ノ利トスル所ナリト雖モ細密ニ之ヲ考究ス
ルハ一方ノ利益ト共ニ他ノ損害ヲ生セサルヲ得ス抑モ
國會ノ事タル民ニ參政ノ權ヲ附與スルノ主意ニシテ即チ
國權ノ一部分ヲ割テ人民ニ與ルモノナレハ人民ニ得ル所
ハ者ハ以テ政府ニ損セサルヲ得ス尙之ヲ約言スレハ從來
政府ニテ七八人ノ當路者カ掌握シタル其權柄ヲ分テ人民
ト共ニ之ヲ執ルカ故ニ人民ノ手ニ入ルモノハ當路者ノ手

ヲ出ルモノナリ故ニ今國民ノ國會ヲ渴望スルハ大旱ノ雲
 霓ノ如ク之ヲ設立シテ其人心ニ可ナルハ猶秋涼ノ如シト
 雖モ天下ノ廣キ稀ニ澤國ナキヲ得ス人民ノ多キ豈患肺ノ
 者ナシトセンヤ蓋シ其局ニ當リテ之ヲ利トセサルモハハ
 現ニ政府當路ノ人ナラン政府ハ澤國ノ如ク當路者ハ患肺
 ノ人ノ如シ彼此ノ利害兩立ス可ラサル者ニ似タリ吾黨ノ
 所見ニ據テ假リニ國會ノ故障ト認ルハ唯コノ一事ニ外ナ
 ラサルナリ且夫レ社會ニ棲息シテ權力ヲ好ムハ素ト人類
 ノ天性ニシテ傍ヨリ之ヲ是非ス可キモノニ非ス之ヲ好ム
 モ可ナリ之ヲ取ルモ可ナリ之ヲ取ル可キノ路ヲ得テ誰レ

カ之ヲ辭スルモノアラシ今全國人民ノ國會ヲ熱望スルモ
 亦他ナシ唯權力ヲ好ムノ天性ニ出タルモノナレハ政府ノ
 當路者モ亦唯其地位ヲ異ニスルノミニテ其權力ヲ好ムノ
 心事ニ至テハ正シク此人民ト異ナラサレハ既ニ掌握シタ
 ル權力ヲ損スルヲナカラント欲スルハ固ヨリ當然ノヲナ
 リ決メ之ヲ咎ムヘキニアラス當路者ハ既有ノモノヲ保護
 セントシ人民ハ未有ノモノヲ得ントス皆等シク人類ノ天
 性ヲ事實ノ上ニ發現スルモノナレハ當路者ノ爲メニ謀ラ
 ハ力ヲ尽シ術ヲ極メテ自家ノ權力ヲ伸張シ甚シキハ世ニ
 專制ト稱セラレ抑壓ト名ケラルヘモ敢テ憚ル所ナク或ハ

自カラ任シテ終始專制ノ主義ニ從フモノナリト公言スル
 モ亦不可アルコナシ此一點ニ就テハ吾黨ハ毫モ喙ヲ容ル
 ヲ爲サス官民相互ニ權ヲ求ルコソ人類ノ眞面目ナレト
 云ハシノミ然ハ則之ヲ求メテ可ナリ之ヲ貪リテ可ナリ之
 ナ人類ノ競争ト云ハシノミ文明開化ハ即チ競争ノ間ニ進
 歩スルモノナレハ官民ノ競争ハ國ノ爲メニ賀ス可キニア
 ラスヤ世間急激ノ論者動モスレハ政府ノ處置ニ就テ不平
 ナ鳴ラシ此レモ政府ノ專制ナリ彼レモ政府ノ抑壓ナリト
 只管其寬仁大度ナランコナ企望スルカ如シト雖モ畢竟無
 益ノ怨言ナルノミ苟モ近時ノ文明世界ニ政府ヲ立テ人

々個々ニ可ナル寬大ノ政ヲ施サントスルモ事實ニ於テ能
 クスヘキニアラス萬一強テ之ヲ施シタランニハ其寬大ノ
 政ト共ニ政府モ同時ニ烏有ニ歸ス可キノミ故ニ政府ハ務
 メテ其權力ヲ保護セサルヘカラス當路者ハ又其地位ヲ固
 クセサルヘカラス人民モ亦坐視傍觀鄰村ノ祭禮ヲ觀テ竊
 ニ愚痴ヲ鳴ラスカ如キ卑屈ニ陷テ可ナランヤ坐シテ之ヲ
 觀ルハ起テ之ヲ求ルニ若カス唯之ヲ求ムルニ法アルノミ
 現時ノ社會ハ即チ競争ノ一大劇場ナリ政府ヲシテ寬仁大
 度ノ進路ヲ從ハシメントスルモ得ヘカラス人民ヲシテ馴
 從屈服セシメントスルモ亦得ヘカラス官民共ニ進ンテ其

權力ヲ求メカチ尽シテ之ヲ争フハ常勢ニ任スルハ外ナキナリ

此立論ノ主旨ニ據リテ之ヲ考フレハ國會ヲ開クノ一事ハ良シヤ人心ノ歸向スル所ナルモ現在政府ヲ維持スルノ主義ニ背馳シテ實際ニ行ハル可ラサルモノ、如シ世ノ學士ハ嘗テ之ヲ考察シタル歟之ヲ考察シテ未タ其說ヲ得サル歟若シ說アラハ幸ニ教示ヲ吝ムナカレ請フ試ニ先ツ吾黨ノ鄙見ヲ開陳セン

世ノ國會論者ハ議員ヲ撰舉スルニ政府ノ官吏ヲ除テ議院ノ外ニ杜絶シ政府ハ則官吏ヲ以テ組成シ國會ハ則人民ヲ

以テ組成シ府ト會ト相對峙シテ朝野ノ政權ヲ限ルノ分界トスルノ趣向ナルカ如シ吾黨亦曾テ此考案ヲ以テ國會ヲ開クノ必要ナルヲ信シタリキ即チ本年府縣會ヲ開テ議員ノ撰舉ニ官吏ヲ除キタルモ亦其意ニ符合シタルモノ、如シ然リト雖モ吾黨頃口如何ニ國會ヲ開設ス可キカノ問題ヲ考究シテ大ニ悟ル所アリ今我國ニ於テ國會ヲ開クニ當リ其模範ヲ西洋諸邦ノ中ニ取ラント欲セハ議員撰舉ノ一事ニ就テハ英國ノ法ニ倣フテ以テ最モ便ナリトス英米兩國ノ國會ヲ比較スルニ其會ノ体裁及ヒ會議ノ勢力ハ固ヨリ相均シト雖モ米國ハ官吏ヲ撰ンテ議員トナスヲ許サス

英國ハ之レニ異ニシテ政府貴顯ノ官吏ハ大抵議員タラサルハナシ此法ニ據レハ英ノ官吏ハ政府ニ在リテハ行政官トナリ國會ニ在リテハ議政官トナリ恰モ行議ノ兩權ヲ兼ルモノナルカ故ニ英政府ハ常ニ國會議員ノ多數ヲ籠絡シテ事ヲ行ヒ意ノ如クナラサルハナシ吾黨既ニ此ニ見ル所アリテ屢之ヲ推蔽シタルニ頃口福澤先生所著ノ民情一新（前篇已ニ其一節ヲ摘錄セリ）ヲ讀ミ英政ノ美ヲ贊シ其議院ノ休裁勢力ヲ說テ時事ヲ切論シタルヲ視ルニ先ツ吾心ヲ得タルモノ少カラス其論スル所國會設立ノコト相關セサルモ吾黨ノ本論本項（議員選舉ノ一段）ニ就テハ最大ノ

關係アリ大ニ吾黨ノ論意ヲ扶クルモノアルヲ以テ吾黨故ラニ之ヲ論スルノ煩ヲ省カント欲シテ先生ニ請ヒ其一節ヲ左ニ抄錄シテ以テ吾黨ノ論援トナス
前畧余カ特ニ英政ヲ美ナリトシテ之ヲ稱賛スルノ點ハ既往ノ結果ニ在ラスシテ現今將來正ニ人文進步ノ有様ニ適シテ相異ラサルノ機轉ニ在ルモノナリ英國ニ政治ノ黨派二流アリ一ヲ守舊ト云ヒ一ヲ改進ト稱シ常ニ相對峙シテ相容レサルカ如クナレモ守舊必スシモ頑陋ナラス改進必スシモ粗暴ナラス唯古來ノ遺風ニ由テ人民中自カラ所見ノ異ナル者アリテ双方ニ分ル、ノミ此人民ノ中ヨリ人物

ヲ撰舉シテ國事ヲ議ス之ヲ國會ト云フ者ハ國會議員ノ撰舉スル
 會ス上院ノ議員ハ人民ノ撰舉ニ非サレモ殆ト權威ナキモ
 ノナレハ英ノ國會ノ權ハ全ク下院ニ在リト云フモ可ナリ
 故ニ國會ハ兩派政黨ノ名代人ヲ會スルノ場所ニシテ一事
 一議大抵皆所見ヲ異ニシテ之ヲ決スルニハ多數ヲ以テス
 內閣ノ諸大臣モ固ヨリ此兩派ノ孰レニカ屬スルハ無論殊
 ニ執權ノ太政大臣タル者ハ必ス一派ノ首領ナルカ故ニ此
 ノ黨派ノ議論ニ權ヲ得レハ其首領ハ乃チ政府ノ全權ヲ握
 テ黨派ノ人物モ皆隨テ貴要ノ地位ヲ占メ國會多數ノ人ト
 共ニ國事ヲ議決シテ之ヲ施行スルニ妨アルコトナシ且政府
 ニ地位ヲ占ルト雖モ國會議員ノ籍ヲ脫スルニ非サルカ故

ニ政府ニ在テハ官員タリ國會ニ在テハ議員タリ恰モ行政
 ト議政トヲ兼ルノ姿ナレハ自カラ勢力モ盛ニシテ事ヲ爲
 スニ易シ。サレモ歲月ヲ經ルニ從ヒ人氣ノ方向ヲ改メ政府
 黨ノ論ニ左袒スル者減少シテ一方ノ黨派ニ權力ヲ増シ其
 議事常ニ多數ナレハ則チ之ヲ全國人心ノ赴ク所ト認メ政
 府改革ノ投票（ヴチート、チフ、ケレダート）ヲ以テ執權以下
 皆政府ノ職ヲ去テ他ノ黨派ニ譲リ退テ尋常ノ議員タルコ
 舊ノ如シ但シ政府ノ位ヲ去レハトテ其言路ヲ塞クニ非ス
 前ノ執權ハ則チ今ノ國會中一黨派ノ首領ニシテ國事ニ心
 ヲ用ヒテ之ヲ談論スルハ在職ノ時ニ異ナラス唯全權ヲ以

テ施行スルヲ得サルノミ政權ノ受授平穩ニシテ其機轉滑
ナリト云フ可シ且又兩黨相分レテ守舊ト改進ト其名ヲ異
ニシ名義ノミニ就テ見レハ水火相敵スルカ如クシテ其相
互ニ政權ヲ握ルニ隨テ全國ノ機關忽チ一變ス可キヤニ思
ハルレモ事實ニ於テハ決シテ然ラス前ニ云ヘル如ク守舊
必スシモ頑陋ナラス改進必スシモ粗暴ナラス等シク是レ
英國文明中ノ人民ニメ全体ノ方向ヲ殊ニスルニ非ス其相
互ニ背馳シテ爭フ所ノ點ハ誠ニ些細ノミ之ヲ衣服ニ譬フ
レハ守舊モ改進モ其服制ノ長袖カ筒袖カニ於テハ固ヨリ
相同シト雖モ唯縫裁ノ時様ノミヲ異ニスル者ノ如シ今ノ

魯西亞ニテ王室ト虛無黨ト相敵シ昔年我日本ニテ攘夷家
ト開國家ト相容レサリシカ如キ者ニハ非サルナリ學者コ
レヲ誤解ス可ラス。サレモ既ニ兩黨ヲ分テ政權ヲ爭ヒ互ニ
新陳交代スレハ其交代ノ時ハ即チ舊政府ヲ排シテ新政府
ヲ開クモノニシテ之ヲ政府ノ顛覆ト名ケサルヲ得ス故ニ
英ノ政府ハ數年ノ間ニ必ス顛覆スルモノト云フモ可ナリ
唯兵力ヲ用ヒサルノミ機轉滑ナリトハ即チ是ノ謂ナリ
右ノ如ク政府ノ改革諸大臣ノ新陳交代ハ全ク國會ノ論勢
ニ任シテ其會ニハ大臣モ亦議員ト爲リテ之ニ參與シ眞ニ
全國人民ノ意見ヲ吐露スルノ公會ト認ル所ノ者ナレハ此

公會ノ決議ニ由テ政府ノ位ヲ去レハトテ其人ノ体面ヲ損スルニ足ラス假令ヒ或ハ不平ヲ抱クモ之ヲ訴ルニ由ナシ又舊政府ニ代テ新政府ヲ開クモ其持續スルト否トハ自家ノ力ノミニ在ラスシテ他ニ任スルヲナレハ深ク之ヲ榮トスルニ足ラス一進一退其持續スル時限五年以上ナル者ハ甚タ稀ニシテ平均三四年ニ過キス不平モ三四年ナリ得意モ三四年ナリ榮辱ノ念自カラ淡泊ニシテ胸中ニ餘裕ヲ存ス可シ故ニ國中ニ如何ナル新說劇論ヲ唱ルモ之ヲ拒ム者ナシ之ヲ唱ヘ之ヲ論シ之ヲ分布傳達シテ果シテヨク天下ノ人心ヲ籠絡スレハ政府ハ之ニ席ヲ讓ル可キノミ之ヲ要

スルニ英ノ政府ニハ一時一定ノ論アリト雖モ永世不變ノ恒ナキモノ、如シ此ノ政黨ニ權ヲ得テ政府ノ地位ヲ占レハ其間ハ其黨ノ論ヲ持張シテ容易ニ動クヲナシ即チ一定ノ論ナリ。サレモ人心ノ方向時勢ノ變遷ニ從テ政府ヲ改レハ初メノ一定論モ亦通用ス可ラス永世不變ニ非サルナリ。田舎ニ簡單ナル水車アリ車ノ軸ヨリ丁字形ニシテ兩腕ヲ出シ腕ノ端ニ水槽ヲ附シテ流水ノ筧ヨリ落ルモノヲ受ケ其水一槽ニ滿レハ則チ轉シテ他ノ一槽ヲ出現シ一槽又一槽。滿レハ落チ。落レハ復タ昇リ其機轉甚タ奇妙ナリ若シモ此水車ノ軸ヲ支ヘテ轉回ヲ止メ片腕ノ一槽ノミニ水ヲ受

ケテ其壓力ニ抵抗セシメタラハ日ナラスシテ腕木ハ打折
 センノミ英ノ政府モ亦コノ水車ノ如キモノニシテ千八百
 年代文明ノ進歩ニ遭ヒヨク其壓力ニ堪ヘテ嘗テ政治ノ仕
 組ニ震動ヲ覺ヘサルハ政黨ノ兩派一進一退其機轉ノ妙處
 ト云ハサルヲ得ス唯英國ノミナラス荷蘭ナリ瑞西ナリ今
 日ヨク國安ヲ維持シテ文明ニ進ムモノハ其治風必ス英政
 ニ類スル所アレハナリ魯西亞ノ如キハ政治ノ車軸ニ巨大
 ナル水槽ヲ附シ瀑布ノ壓力ニモ抵抗セントスルノ勢ヲ以
 テ勉勵爭鬪スルヲナレモ到底其瀑布ノ源ヲ塞クノ術ナシ
 或ハ政府ノ人モ今ノ政略ヲ以テ全ク得策トスルニ非サル

可シト雖モ如何セン一大帝國全面ノ有様ヲ左顧右視スレ
 ハ亦斷シテ自由ノ風ニ從フ可キニモ非ス畢竟其暴政ハ止
 ムヲ得サルニ出タルノ策ニシテ之ヲ姑息中ノ果斷ト云フ
 モ可ナラン當路者ノ苦心想見ル可キナリ或ハ去テ亞細亞
 大洲ノ中央ヲ見レハ其國內無事ニシテヨク社會ノ秩序ヲ
 存スル者アルカ如クナレモ其然ル由緣ハ他ナシ人民ノ聞
 見狭クシテ未ダ文明ヲ知ラサルカ爲ノミ試ニ今後支那ノ
 國內ニ鐵道、電信線ヲ架シ印刷ノ器械ヲ採用シテ郵便ノ法
 ヲ施行シタラハ彼ノ人民モ亦決シテ默止スル者ニ非ス必
 ス其社會ニ大震動ヲ起ス可キハ智者ヲ俟タスシテ明ナリ

滿清ノ執政者ハ之ヲ知テ文明ヲ拒ム者歟或ハ知ラスシテ偶然ニ之ヲ嫌フ者歟何レニモ千八百年代ノ文明ヲ國ニ入レテ舊政府ノ風ヲ維持セントスルハ萬々企望ス可キ事ニ非ス我日本ノ徳川政府モ之カ爲ニ倒レタリ滿清政府ニシテ獨リヨク之ニ抵抗スルヲ得ンヤ文明ヲ入レサレバ外國ノ侵陵ヲ受ケテ國ヲ滅ス可シ之ヲ入ルレバ人民ニ權ヲ得テ政府ノ舊物ヲ顛覆ス可シ二者其一ヲ免カル可ラス後世子孫必ス之ヲ目撃スル者アラシ

以上所記ニ從ヘハ英國ノ政府ヲ改革スルモ又諸大臣ヲ黜陟スルモ其權柄ハ全ク人民ニ屬シテ國王ハ有レテ無キカ

如ク之ヲ蔑視シテ顧ル者ナキヤト尋ルニ決シテ然ラス王室ヲ尊崇スルハ英國一種ノ風ニシテ假令ヒ如何ナル自由黨ノ劇論家ニテモ公然トシテ王室ノ尊威ヲ攻撃スル者ナシ嘗ニ公然ナラサルノミナラス其本心ノ私ニ於テ然ルモノ、如シ蓋シ英人ノ氣象ハ古風ヲ依ニシテ進取ノ用ヲ逞フスル者ト云フ可シ或ハ其度量寛大ニシテヨク物ヲ容ルゝ者ト云フモ可ナリ彼ノ佛蘭西其他ノ人民カ自由ノ改革ト云ヘハ直ニ國王ヲ目的トシテ之ヲ攻撃シ王室恢復ト云ヘハ直ニ人民ノ自由ヲ妨ケントスルカ如キモノニ比スレハ同年ノ論ニ非ス元來人ヲ御スルノ法ハ習慣ニ由テ寛猛

ノ別アル可キノミ試ニ下等社會ノ家族ヲ見ヨ其子弟タル者甚頑強ニシテ容易ニ長者ノ命ニ從ハス其交際常ニ粗暴ナル言語ヲ用ヒ甚シキハ腕力以テ之レヲ強迫シ父母ニシテ手ツカラ其子ヲ打擲スル者多シ之ヲ上等家族ノ子弟カ父母ノ顔色ノ緩嚴ヲ窺フテ喜懼ヲ催フス者ニ比スレハ甚シキ相違ナリ其然ル由縁ハ何ソヤ唯習慣ノ家風ニシテ上等家族ノ親子ハ相互ニヨク容レテ迫ラス。相親テ犯サズル者ノミ今英國ノ王室ト人民トノ間ハ恰モ此上等家族ノ如キ者ニシテ嘗テ相犯スノ舉動ナキノミナラス中心ニ之ヲ犯スヲモ忘レタル者ナリ。犯サハル國王ハ益貴ク。犯サハ

ル人民ハ益親シク以テ社會ノ秩序ヲ維持スルハ人間最大ノ美事ト云フ可シ文明ハ猶大海ノ如シ大海ハヨク細大漏ハ河流ヲ容レテ其本色ヲ損益スルニ足ラス文明ハ國君ヲ容レ。貴族ヲ容レ。貧人ヲ容レ。富人ヲ容レ。良民ヲ容レ。頑民ヲ容レ。清濁剛柔一切コノ中ニ包羅ス可ラサルハナシ唯ヨク之ヲ包羅シテ其秩序ヲ紊ラス以テ彼岸ニ進ムモノヲ文明トスルノミ區々タリ世上小膽ノ人。一度ヒ尊王ノ宗旨ニ偏スレハ自由論ヲ蛇蝎視シテ其文字ヲモ忌ミ一度ヒ自由ノ主義ニ偏スレハ國君貴族ヲ見テ已カ肩ニ擔フ重荷ノ如クニ思ヒ一方ヨリ門閥一切廢ス可シト云ヘハ一方ハ又民

權一切過ム可シト云ヒ何ソ夫レ狼狽ノ甚シキヤ事物ノ極
 度ヨリ極度ニ渡テ毫モ相容ル、_レ能ハサル其有様ハ恰モ
 潔癖ノ神經病人カ汚穢ヲ濯テ止ムヲ知ラサル者ノ如シ其
 愚笑フ可シ其心事憐ム可シ啻ニ憐ム可キニ止マラス世ノ
 亂階ハ大抵コノ輩ニ由テ成ルモノナレハ此點ニ就テ觀レ
 ハ亦恐ル可キモノナリ
本論第九回ニ記スル所ノ者ハ
 右ニ記スル所ノ者ハ則民情一新第五章ノ一節ヲ摘錄シタ
 ルモノニシテ以テ大ニ吾黨カ本論ヲ立ルノ主意ヲ助成ス
 ルモノアルヲ知ルヘシ書中記スル所ニ據レハ英國ノ政權
 ハ全ク國會ニ歸シタリト雖モ國會ノ議員中政府ニ黨スル

8.12

者多數ナルカ故ニ政權自ラ鞏固ニシテ動カサルモノナル
 ナ以テ政府當路ノ人ハ常ニ此黨派ヲ結合スルニ汲々トシ
 テ或ハ新聞紙ニ頼リテ政府ノ意見ヲ公布シ或ハ集會ヲ催
 フシ或ハ演說ヲナシ甚シキハ遠近ニ交通シテ人心ヲ籠絡
 スルノ密策ヲ運ラスカ如キ_レ黠シトセス而シテ其目的ヲ
 尋ヌレハ唯タ他ノ非政府黨ヲ壓倒シテ自家ノ說ヲ保持
 スルニアルノミ今其舉動ヲ皮相シテ之レカ評ヲナサハ
本論第七回ニ
 甚タ賤劣ナルカ如シト雖モ吾黨カ前ニ明言セル如ク今
 日ノ社會ハ競争ノ一大劇場ニシテ開明ハ則競争ノ結果ナ
 リトスルハ毫モ之ヲ咎ルニ足ラサルナリ且ヤ其爭ハ私

一、二、ノ人ニ依頼シ、陰ニ二、三、ノ人ヲ擯斥シ、以テ一身ノ地
 位ヲ固クスルカ如キ陰險卑屈ナル小人ノ争ヲナスニアラ
 ス、天下ノ人心ヲ籠絡シテ衆庶ノ方向ヲ制スルノ精神ニ發
 スルモノナレハ恰モ一國ノ政權ヲ四通八達ノ大道ニ争フ
 モ、ハニシテ則之ヲ丈夫ハ争ト謂ハンハミ其争也君子ナリ
 之ヲ争フテ勝テハ則政權ヲ掌握シテ天下ヲ制シ勝タサレ
 ハ則退テ之ヲ人ニ讓リ以テ異日ヲ期ス之ヲ争フノ間權謀
 術策施シテ尽サ、ル所ナシ即チ智術材能ヲ鬪ハシメ機ニ
 投シ勢ニ乗シテ人心ノ多數即チ輿論ヲ占有センコトヲ天下
 ノ顯場ニ競争スルモノナリ一勝一敗固ヨリ命ノ存スルア

リ嗚呼其争ヤ公然タリ其之ヲ争フハ心事亦快然トシテ洗
 フカ如キモノナリト云フヘシ

今夫レ我國ニ於テ國會ヲ開キタランニハ良シヤ人民ノ意
 ニ適スル猶大旱ノ雲霓ニ於ケルカ如クナルモ當路者ハ爲
 ノニ利スル所無クシテ官民ノ利害兩立セサルノ憂アルカ
 如クナレトテ若シ英國ノ法ニ倣ヒ國會議員ニ官吏ヲ除クコ
 ナク國民一般ノ投票（投票ノ一項ハ吾黨別ニ説アリ）ニ附
 シ以テ天下人心ノ歸向スル所ニ隨ハ、今ノ當路者ハ果シ
 テ其撰ニ當ラサル者ナルカ吾黨ノ所見ニ據レハ政府ハ人
 才ノ淵藪ナルヲ以テ假令ヒ野ニ遺賢ナキニアラスト雖モ

全國智德ノ大半ハ政府中ニアリト云ハサルヲ得ス是レ吾
 黨ノ証明ヲ俟タスシテ政府ノ官吏モ亦自ラ知ル所ナラン
 而シテ吾黨カ國會ヲ唱ルモ現時ノ當路者ハ愚ナルカ故ニ智
 者ヲ以テ之レニ代エント云フニ非ス畢竟本論ノ主意ハ唯
 政權分與ノ一點ニ在ルカ故ニ政府二三ノ手ニ握ル所ノモ
 ノヲ以テ二三十人ニ分テ五六人ニ關ル所ノモノヲ散シテ
 五六百人ニ平均セシメントスルニ過キサルモノナレハ議
 員撰舉ノ一段ニ至リ官吏ニシテ其撰ニ當ル可キハ疑ヲ容
 レサル所ナリ

夫レ斯クノ如ク當路者ニシテ既ニ議員ノ撰ニ當ラハ密ニ

政府ノ當路ノミニ非スシテ又國會ノ當路ナレハ則一舉兩
 權ヲ得ルモノニアラスシテ何ソヤ然ラハ則國會ヲ開クノ
 一事ハ今ノ當路者ノ權ヲ殺クニ非スシテ却テ之ヲ増スモ
 ハナリト云フモ可ナラン蓋シ政府當路者ノ爲メニ謀リ又
 其公務ノ爲メニ謀リ又人民ノ爲メニ謀リ又天下公共ノ利
 益ノ爲メニ謀リデ一モ其故障ナキモノハ即チ國會設立ノ
 一事ナラン國會ハ固ヨリ政權ヲ爭フノ論壇ニシテ異說抗
 論ノ戰場ナレハ其黨與兩派ニ分離シ將タ三方ニ鼎立シテ
 政府黨ニ抗スルヲアルヘシト雖モ斯クノ如キハ則此會ノ
 眞面目ニシテ毫モ之ヲ怪ムニ足ラサルナリ政府モ亦力ヲ

尽シテ其權ヲ保護シ劇論ヲ唱エテ抗黨ヲ制シ密議ヲ以テ
 事ヲ謀ルモ可ナリ權畧モ用ユ可ク著書新聞紙モ亦之ヲ利
 用ス可シ講談演說モ亦其功ヲ奏スルアラシ(官吏ノ演說ハ
 此ニ至リテ必要ナルヘシ)凡ソ人力ノアラシ限リ人智ノ
 及ハン限リ之ヲ極メ之ヲ尽シテ以テ其施政ノ主義ヲ保持
 スヘシ而シテ其主義トスル所遂ニ衆論ニ制セラレン乎決然
 之ニ路ヲ譲リ席ヲ與ヘテ更ニ其主義ノ輿論ヲ制スルノ方
 ナ求メ其時ノ至ルヲ俟ツ可シ眞ニ是レ大丈夫ノ競争ニア
 ラスヤ今ノ當路者モ亦本來太平靜穩ノ人ニアラス維新ノ
 險波狂濤ヲ蹈破リテ爾後無限ノ變亂數奇ニ當リ百折千磨

撓マ、ス、屈セ、ス、其活潑敢爲ノ氣象ニ富メルヤ世人ハ飽ク迄
 知ル所ナリ焉ソ區々ノ小康ニ安ンシテ婦女子ノ姑息ヲ
 學ヒ徒ニ勝ツヲ好ンテ自ラ得タリトスルモノナランヤ
 世人ハ刮目シテ今後ノ動靜ヲ注視セヨ

(未完)

明治十二年八月廿九日御届

東京芝區

南佐久間町二丁目十三番地

藤田茂吉

編輯兼出版人

同

同町十四番地

箕浦勝人

同日本橋區

藥研堀町

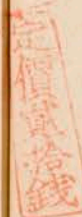
報知社支店

發兌書肆

同

日本橋通三丁目

丸屋善七



三田
清水書店

